

刊行にあたって

本ディスカッションペーパーは、京都大学地域研究統合情報センター（地域研）が主催したワークショップ『世界のジャスティス—地域の揺らぎが未来を照らす—』（2014年4月26日、京都大学稲盛財団記念館）の記録です。

近年日本では、格差や経済規模の縮小、環境問題や安全保障など、向き合うべき課題は増える一方であり、さらには世界の遙か遠いところで起こっていたはずの対立にもまた、巻き込まれつつあります。これらに対して、人材も技術も、智恵も発想も、これといって有効な手立てがない、ということは多くの人が共通して持っている認識ではないでしょうか。しかし、こうした状況であるからこそ、危機を煽り、対立を誇張する言説に惑わされることなく、世界の様々な地域で蓄積されてきた歴史的な智恵、言葉や文化を超えて学び敬うことのできる経験や姿勢を、丁寧に探し出してくる必要があります。そしてそれは、地域研究者たちの仕事であるはずで

地域研は2006年に設立されて以降、地域を横断した相関型地域研究の推進、地域に関連した情報資源の共有化システムの開発・整備、情報学を応用した「地域情報学」を、推進してまいりました。いわば、地域研究という地域毎に行われる研究を、情報学を通して開き、繋ぎ、そして刷新していく場を育んできました。現在のように、課題が飛び火し、ローカルな問題がグローバルな問題へ変容していく時、それを鎮静化したり、調整したりする智恵もまた、ローカルな現場からグローバルな現場へ変容できる可能性があるはずで

こうした背景をもとに、2014年4月のワークショップは、世界で起こる様々な対立や紛争、衝突を調整するための智恵や知見を紐解くことを目的として構想されました。より具体的に申しますと、対立の際に人々は、お互いに正統性を主張し合い、自らの正義を押し付け合うわけですが、その状況を融和し、調整しうる道としての開かれた第三の正義を「世界のジャスティス」として捉えることにしました。そしてそのジャスティスを、それぞれの5人の発表者が対象とする地域の時空間の中から、探し出してみることにしたわけ

本ディスカッションペーパーは、これら発表された5つの課題と総合討論から構成されています。総合討論におけるコメンテーターには、河合塾公民科講師の河合英次先生、上智大学で都市社会学を研究されている幡谷則子先生、長崎大学からは熱帯の公衆衛生学の専門家である門司和彦先生をお迎えし、大変貴重なコメントを頂きました。

最後になりましたが、コメントを下された河合先生、幡谷先生、門司先生、そしてご参加頂いたすべての方に、この場をお借りしまして、御礼申し上げます。白熱したワークショップの内容が少しでもお伝えできれば幸いです。今後とも、さらなる地域研究の発展につながるように、みなさまのご指導・ご鞭撻、何卒宜しくお願い致します。

原正一郎（京都大学地域研究統合情報センター・センター長）

谷川竜一（京都大学地域研究統合情報センター・助教）